

〔 研究 〕

検査のシステム化によって 考えられる検査技師の将来像

総合病院 岡山赤十字病院
○井口祥三郎 川西 孝
豊田ミツエ

Key words : 医療行政, 臨床検査技師, システム化, 臨床協力,
未来像

【 は じ め に 】

医療行政が直面している最大の課題は、21世紀に予想される超高齢化社会への対応である。増え続ける老人医療費をはじめとする国民総医療費に対し厚生省は、97年9月健康保険法等の改正を行い、引き続いて12月に第3次医療法改正を行った。そして98年4月、98年度診療報酬改定が行われたが、これは医療施設にとっては言うに及ばず、検査部門にとっても非常に厳しいものであった。在院日数の短縮、高齢者の長期入院の是正、そして次に検査料等の引き下げが示されていた。即ち「各種検体検査や画像診断（CT、MRI）を実勢価格に基づいて引き下げる」と言うものであった。

このような時、我々検査技師は旧態然としてただ検査室の中にこもり、検査だけをしていていいものだろうか。経営者の考える合理化は、一番にコ・メディカルのリストラであり、人件費削減に名を借りた検査のランチ・FMS化等であろう。

そこで我々は、一人一人が強い自覚のもと医師をはじめとする臨床スタッフに堂々と加

わることのできる日頃の勉強はもとより、現在の検査以外に出来ることはないか考えてみたいと思ひ、現在当院で行っているシステム化に伴う臨床協力を紹介し、併せて将来の検査技師像を考えてみたい。

【 検 討 項 目 】

1. 当院における従来の検査室人員配置。
2. 現在の検査室の人員配置。
3. 検体検査の流れ。
4. 化学、血液、血清の主力機器と仕事の流れ。
5. 当院における労働協約の勤務時間。
6. 検査室の勤務体制。
7. 新しい検査室の仕事。
8. 将来の仕事の流れ。（オーダーリング）

【 検 討 内 容 】

1. 従来の検査部門は、図1のごとく検査部、病理部の2つの部に分かれ、検査部においては、臨床検査課（血液検査、一般検査）、化学検査課、細菌血清検査課、ME検査課と細分化されそれぞれ独立していた。
2. 検体検査5部門について、長瀬産業のサ

ン・スパーク・ステーションによりシステム化し、そのうち化学検査、血液検査、血清検査をワンフロアに統合し、中央検査室とした。当院においては、外来部門が1・2Fに分かれているため、一般検査と、細菌検査をリフトでつなぎ、尿の検査に対応した。その結果人員配置は、中央検査室13人、一般検査、細菌検査それぞれ3人となった。(図2)

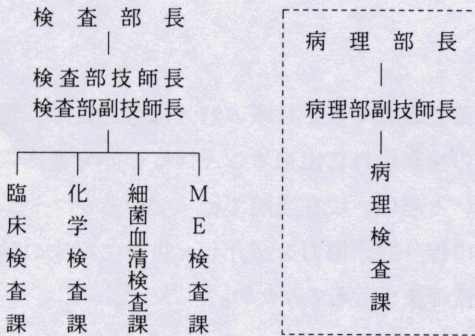


図1 従来の検査部人員配分

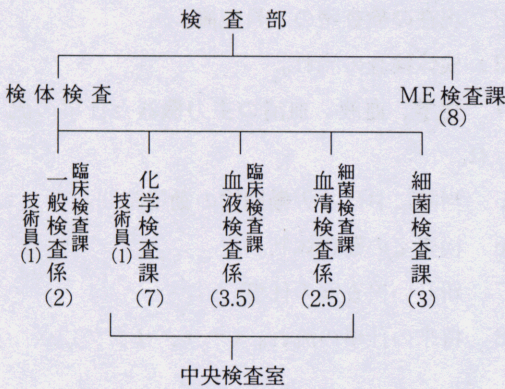


図2 システム後の実質人員配分

3. 検体の流れは、図3に示す通りである。検体受付は、尿検査について到着確認は、1階一般検査と2階細菌検査に設置した。その他の検体検査はすべて2階とし、化学検査、血清検査については到着確認後、自動分

注機にて検体の分注を行った。

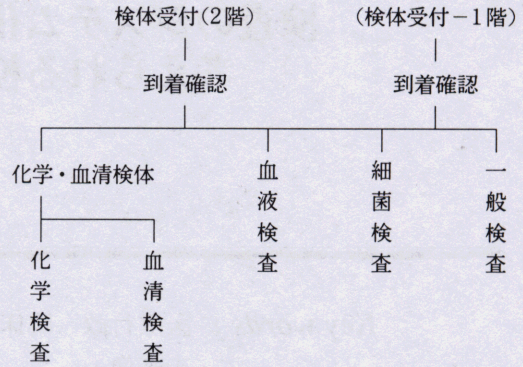


図3 検体検査の流れ

4. 化学検査の主力機器は、図4に示す通りである。分注器で検体の採取できるものは4項目であった。血液検査、血清検査の機器は図5・6に示した通りである。

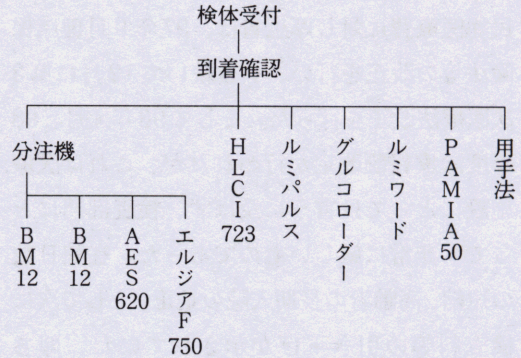


図4 化学検査

5. 当院の労働協約によって結ばれた勤務時間は、図7に示す通りで通常勤務者、交代制勤務者、その他及び就業の特例である。
 6. 検査部ではシステム化に伴い、就業の特例を適用し、中央検査室で検体検査に従事している13人を対象に本人の了解を得、図8に示した通り、常時2名、月曜日・祝祭日の翌日1名の早出勤務者をもうけた。
 7. 検査を円滑に行うため、早出勤務者が深

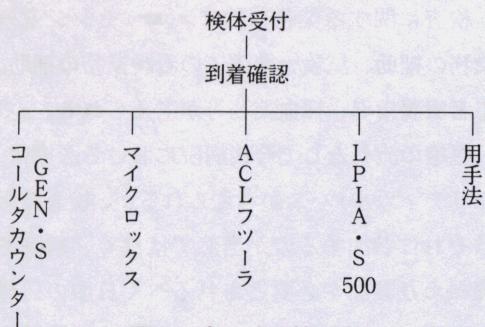


図5 血液検査

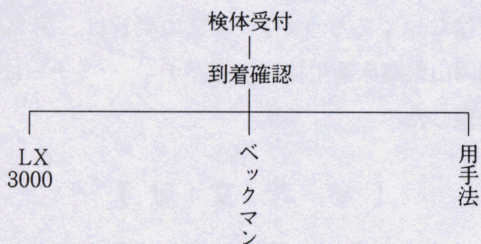


図6 血清検査

1. 通常勤務者 AM8:30~17:10
2. 交代制勤務者
 - 第1勤務 AM8:00~17:10
 - 第2勤務 PM4:30~ 1:10
 - 第3勤務 AM0:30~ 9:10
3. 監視又は断続的制等の勤務者
 1. 給食調理員
 2. 病棟勤務看護助手
 3. 施設課運転
 4. 医事課受付
 5. 健康管理センター
4. 就業の特例 注：一部は職員就業規則

図7 労働協約の勤務時間

1. 通常勤務者 AM8:30~17:10
2. 早出勤者(2) AM6:30~15:10
3. 月曜・祝祭日の翌日勤務者(1) AM7:30~16:10

図8 検査部の勤務時間

夜採血された病棟の検体を集めることとした。また、定期的外来の検体集め、病棟・外来の試験管準備等が新しい仕事として検査に加えられた。(図9)

1. 病棟の検体集め
2. 外来の検体集め
3. 病棟・外来の試験管準備
4. 外来患者採血業務
5. 廃棄物の分別及び集積

図9 検査部の新しい仕事

8. 将来の仕事の流れは、現在行っているOMRからオーダーリングへの移行が実施されることを念頭に、新たな仕事の流れを構築することである。

【 考 察 】

今回のシステム化に伴い、検体検査、特に血液検体検査については、検体受付及び到着確認を一カ所とした。人員配分も一応各セクションに分けてはいるが、ワンフロー、ローテーションを原則とした。これにより、欠員部署に対する人的配置が可能となり、有給休暇の消化も以前の少人数、細分化された時に比べ大幅に緩和された。

そしてこのシステム化による最大のメリットは、OMRによる受付一本化によりミスが最小限に防げるようになったことである。

また、このシステムで入院患者の至急検体の検査結果は、8時までには報告可能となり、外来患者の迅速検査が始まる前に終了することが可能となった。また迅速検査においても、入院検体との重複が避けられたため、30分以内での報告が可能となり大幅なスピード化が実現した。

以上のことが実現した背景には、ワンルーム化による検体の流れがスムーズになったこ

とが大きく影響したものと思われる。

また、測定結果を判断する際、制度管理はもとより、新設したいくつかのチェック機能を含め、検査技師の知識と経験を加味して判断することにより、精度、正確性が一段と向上し、測定値に起因するトラブルは著しく減少した。

報告書についても、従来の各検査毎のものは廃止し、同一規格のプレ印刷のものと、フリー印刷の2種類とに統一し、簡素化した。

【 結 語 】

我々検査技師は、システム化により生じた、たとえ微々たる労力であっても、現在置かれている立場をおのおのが自覚し、今後どのように検査業務に、ひいては病院業務に生かすか考える必要がある。(図10)

1. 検査業務
2. メッセージャー補助業務
3. 看護補助業務
4. 患者療養指導
5. 採血業務
6. 院内安全衛生・感染対策
7. クリティカル、パス
8. 病院経営参画

図10 検査技師の本来、未来像

検査に関する業務の他に、メッセージャー業務の補助、試験管準備等の看護業務の補助、患者療養指導、採血業務等が考えられる。

医療の流れとして今後病院における医療は、クリティカル・パスが考えられるが、検査技師はそれに参加するのが当然ではなく、病院各部課より参加を必要とされるべく日頃の研鑽が必要であろう。このことはひいては病院経営への参画にもつながり、検査技師の未来像ではないであろうか。(本文の要旨は、第29回岡山県臨床衛生検査学会パティ・セミナーに発表した。)

【 参 考 文 献 】

- 1) 富田光春 他：緊急検査. 臨床検査vol42: 657~661, 1998